

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

京都府

●地域における現状・課題

- ・本府では生徒数減少により、地域によっては学校部活動の成立が困難な種目もある一方で、現在の学校部活動としては成立している地域もある。
- ・学校部活動は、教師の献身的な勤務によって支えられており、長時間勤務の要因や、指導経験のない教師には多大な負担となっているケースも見られる。
- ・市町（組合）教育委員会では、地域移行に係る検討委員会の設置や、受け皿、各地域における実情把握のアンケート実施等の体制が整っていない地域も見られる。
- ・実証事業実施自治体においては、事業を進めるに当たって、全国的な課題でもある指導者確保や費用負担の在り方の他、既存の学校部活動との調整やトラブル対処の体制整備等、より具体的な課題が出てきている。

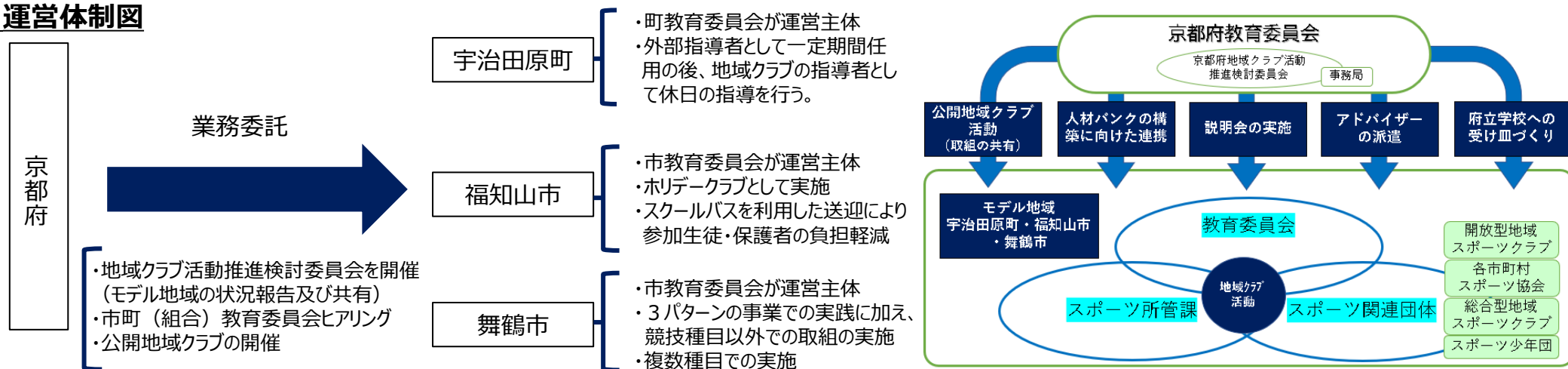
●取組事項の概要

- ・京都府地域クラブ活動推進検討委員会の実施（年間2回）
- ・市町（組合）教育委員会ヒアリングにより、各地域の実情把握を行った。また、本府「京都府学校部活動及び地域クラブ活動推進指針」（以下、「指針」という。）作成に当たっての参考とした。
- ・実証事業実施自治体における公開地域クラブ活動を実施し、実証事業の取組内容の他の自治体への共有・周知及び実施状況の把握を行った。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・市町（組合）教育委員会ヒアリングにより、各地域の実情把握ができた。また、本府「指針」作成に当たっての参考とした。
- ・公開地域クラブ活動の実施により、実証事業の取組内容の他の自治体への共有・周知及び実施状況の把握ができた。
- ・「指針」を作成し、市町（組合）教育委員会に配付した。

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

京都府舞鶴市

●地域における現状・課題

- ・少子化の影響で生徒数、教員数が減少しており、休部や廃部、合同チームの設置等が増えるとともに、顧問の複数配置ができなくなっている。
- ・舞鶴市の特徴として西地区と東地区にわかれ、周辺部と市街地は距離があるため、生徒の交通手段を保護者の送迎に頼らざるを得ない。
- ・部活動地域移行についての地域の理解は一定進んでいるが、どの競技も指導者不足が問題となっている。

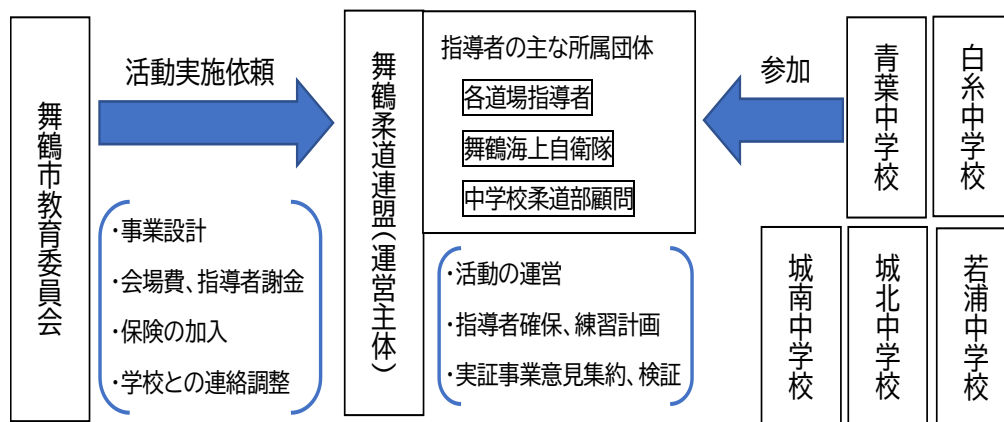
●取組事項の概要

- ・「複数の地域クラブ活動から選択して参加する」…野球で実施。12月と1月にすべての学校の野球部の休日の活動を中止し、3チームから選んで活動した。
- ・「学校部活動を地域の人が指導する」…青葉中男子バレー部、白糸中女子バレー部、城南中男子バスケット部、加佐中バドミントン部で実施。
- ・「全中学校生徒を対象に合同で練習する」…ソフトボール、ソフトテニス、柔道、剣道、陸上競技で実施。それぞれ1か所に集まり、合同で練習した。
- ・「学校部活動にある競技種目以外の取組」…舞鶴ちゃったスポーツクラブによる基礎部活（ゆる部活・トレーナー部活）の実施。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・学校部活動の休日の活動を期間を決めて中止することによって、多くの生徒が参加することができた。360名の生徒が実証事業に参加した。
- ・柔道については、連盟の強い協力体制があり、来年度から休日の本格移行について話が進められるまでになった。
- ・生徒の個人申込み、活動実施団体から参加者への連絡などの体制が確立し、学校や顧問が関わらなくても地域の指導者による活動が実施できた。

●運営体制図（柔道）



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- （1）運営類型：市町村運営型（地域団体・人材活用型）
- （2）運営主体：舞鶴柔道連盟
- （3）種目：柔道
- （4）指導者の主な属性：舞鶴柔道連盟所属
- （5）1か月あたりの平均的な活動回数：4回（毎週土曜日の午前）
- （6）主な活動場所：舞鶴文化公園体育館 柔道場
- （7）主な移動手段：自転車、保護者送迎
- （6）1人あたりの参加会費等（年額）：0円/年
- （7）1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1850円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

京都府福知山市

●地域における現状・課題

- 市立中学校9校において、2～10種目の運動部活動を実施。内、3校が2種目のみであり、本市の全生徒が希望する運動部活動に入部できていない現状があり、少子化により今後さらに部活動の存続が難しくなる中で、青年前期（中学生）のスポーツ活動が十分に確保できていない状況がある。
- 子育て等で休日の部活動に負担感を持つ教員や、未経験種目の顧問として指導をする教員が4割以上あり、技術指導等が難しいと感じている現状がある。

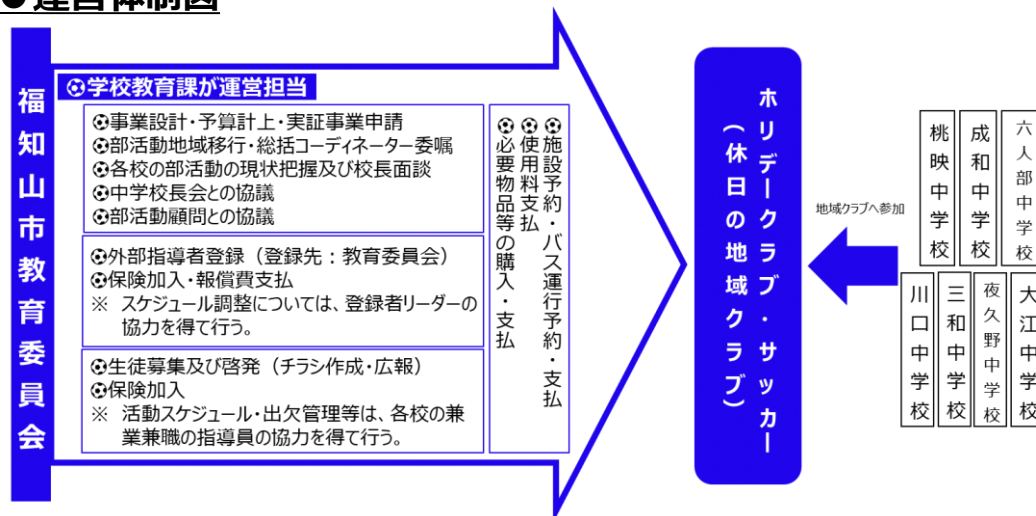
●取組事項の概要

- 福知山市部活動改革検討会議の設置（年間5回開催）及び部活動地域移行・総括コーディネーターを2名配置し、本市の部活動の地域移行を進める体制整備を行う。
- 休日の部活動の地域移行モデル「ホリデークラブ・サッカー（地域クラブ活動）」を10月より実施する（期間10月～3月 計11回実施）。

●取組の成果、特に工夫した点等

- 参加生徒33名、指導者11名で活動。毎回1～2ルート为学校バス運行を実施。大きな遅延や事故もなく安全に生徒の移動をサポートすることができた。
- 対象者へのアンケートの結果、生徒の90%が活動に対して満足している、97%が外部指導者の指導について満足していると回答。参加生徒の保護者の86%が今後もホリデークラブに参加させたいと回答した。

●運営体制図



●ホリデークラブ（地域クラブ活動）の概要

- (1) 運営類型：市町村運営型（地域団体・人材活用型）
- (2) 運営主体：福知山市教育委員会（担当：学校教育課）
- (3) 種目：サッカー
- (4) 指導者の主な属性：兼業兼職の教員・一般社会人
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：月2回・基本土曜日の午前中3時間
- (6) 主な活動場所：中学校グラウンド・民間スポーツ施設・市立グラウンド
- (7) 主な移動手段：スクールバス
- (8) 1人あたりの参加会費等（年額）：参加者負担なし
- (9) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,850円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

京都府綴喜郡宇治田原町

●地域における現状・課題

本町は人口10,000人未満で町内に小学校が2校、中学校が1校という小さな町である。高齢化率（65歳以上の比率）は30%を超え、平成26年には300人を超えていた中学校の生徒数も、年度によっては200人を割る年もあるなど、少子高齢化が進んでおり、中学校の部活動については、生徒数の減少にあわせ、部数を減らすことで、部の存続を図っている状態である。今後も生徒数の減少が予測される中、生徒へ専門的な指導を継続して提供するには、地域人材の確保が最大の課題となる。

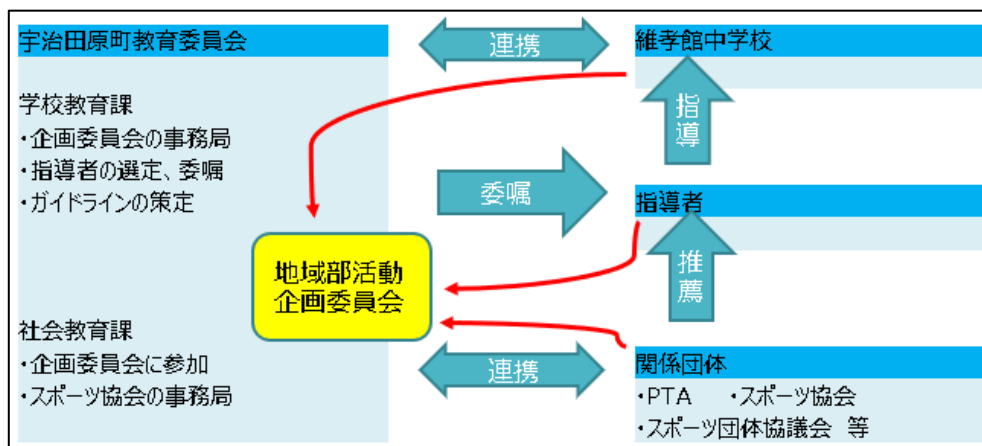
●取組事項の概要

- ・コーディネーターを任用し教育委員会、学校、指導者間で連携を密に図り、教育委員会を運営母体として地域移行をすすめた。
- ・『地域部活動企画委員会』を今年度2度開催。学校関係者、指導者、保護者（小中各PTA会長）、スポーツ関係団体等と意見交流、協議を行った。
- ・バレーボール部に教育委員会が委嘱した地域指導者を配置し、11月から地域部活動を開始した。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・1町1中学であることから、コーディネーターを中心に校長と綿密に打合せを行い、『学校のニーズを最優先とした地域移行』を推進した。
- ・生徒、保護者に混乱が生じないよう、バレーボール部保護者会を開催し、教育委員会、教職員、指導者が地域移行についての説明をした。
- ・上半期に外部指導者として顧問とともに活動することで、下半期から町指導者へとスムーズに移行でき、今後のモデルケースとなる形ができた。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
- (2) 運営主体：宇治田原町教育委員会
- (3) 種目：バレーボール
- (4) 指導者の主な属性：地域指導者
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：8回（男女各4回）
- (6) 主な活動場所：町立維孝館中学校体育館
- (7) 主な移動手段：自転車又は徒歩
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：0円
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,850円